

新たな色、新たな天然素材の京友禅で伝統的な業界に新風

独立行政法人 中小企業基盤整備機構近畿支部
近畿地域活性化支援事務局プロジェクトマネージャー

松田正夫



岡山耕三代表

岡山工芸 (個人事業)
本社 京都市伏見区深草
 西浦町8-2-2
 ☎ 075-643-4317
<http://www15.ocn.ne.jp/~okayama/>
業種 手描き京友禅・和装全般の製造・販売
設立 1968年9月
年商 4億円
従業員数 36名

伝統工芸の枠組みからの脱却

古都・京都の伝統工芸、京友禅・西陣織は共に長い歴史を誇り、全国的に知名度が高い。しかしその一方、伝統産業であるが故に生産・販売システムが固定化し、新規商品の提案、新市場開拓が行われてこなかった面も否めない。それだけに、この成熟分野での新商品の開発努力と経営革新、生産の合理化が新たな市場、新たな需要を掘り起こしていく可能性も大きいのである。

ある。

岡山工芸(京都市伏見区、岡山耕三代表)では、一九六八年の創立以来、京都室町の間屋から生地を支給を受け、着物の反物を手描き友禅で染めて納品する染色加工業を続けてきた。手描き糸目友禅、臍(うろけ)染め、摺(す)り友禅、金彩加工など着物の加工に関するあらゆる分野の職人集団を抱え、和装に関するツールなものづくり技術を保有している。

現在、和装業界の市場規模はピーク時の四・五%にまで落ち込んでいる。もちろん根底には生活様式の変化から来る着物離れがあるが、その一方で複雑な流通経路からくる小売価格への不信感も大きいと考えられる。

同社ではこれらの問題を解決するため、委託加工から脱却し、特徴のある京友禅の新商品を開発、さらに消費者の声をじかに聞くことができる販売事業に乗り出すことにした。

二〇〇五年度から中小企業基盤整備機構の中小繊維製造事業者自立事業に取り組み、京都丹後の織物はもとより全国の優

れた絹織物を素材として、織りと染めを融合させた自社ブランド「たゆたゆ」を開発。適正な小売価格での提供と消費者ニーズをとらえた商品企画に重点をおいて、生地調達から最終製品の製造・販売まで一貫したビジネスを構築していく。その結果、新たな商品開発のノウハウもつかめ、優れた技術の職人集団も維持することができた。

さらに、〇八年七月に認定を受けた中小企業地域資源活用促進法認定事業では、楡(か)エキスで重ね染めする「本檜(ほんひのき)」染めの技法を開発、きもの・帯・和装小物・シヨールなど、総合的な企画商品の開発と販売を目指す。「本檜」染めは従来にない深みと独特の色あいの特徴で、同社が商標登録する保有技術である。素材も従来の絹に加え、新たに竹繊維や天蚕(てんさん、ヤママユガ)の糸などの天然素材も導入し、同社の三名の手描き友禅伝統工芸士が腕をふるう。

自社ではできない引き染め加工・刺繡(ししゅう)・仕立て・染色補正・整理等は地域の分業制度の下にある各専門家(協力工場百五

十社」との連携で行う。

まさに世界に誇る京友禅技術を時代に合わせて進化させ、次世代に継承させることを目指す事業である。

一方、販売面では、大手販売店との取引をこれまで通り行うとともに、伝統的な呉服専門店に同社社員が出向き、最終顧客に直接商品説明をしながら販売する形態を増やすなど、新たな試みを行う。また、展示会などに積極的に出展することで、新規販路の開拓を図る。

試作品が気に入られて百着の受注も

地域資源の認定取得については、中小企業基盤整備機構から紹介された京都の企業の総合支援機関である(財)京都産業21に相談し、申請書作りに取りかかった。新商品開発については、すでに同社が目指してきたことに一致しているので問題はないが、産地の歴史、現状、市場、ニーズ等については大まかにしかとらえておらず、それぞれのバックデータを把握するため、京都

工芸染匠協や、西陣織工業組合に出向き、資料集めから始めた。申請書の完成まで悪戦苦闘の連続であったが、中小機構と京都産業21に何度もアドバイスを受けて、何とか提出・認定に至った。

認定後は、岡山代表と京友禅手描部門の「伝統工芸士」および「京都府伝統産業優秀技術者・京の名工」である岡山武子さんを中心に、社内スタッフと外部の図案家、アドバイザー等の専門家も加わったプロジェクト

チームにより企画、意匠の開発を行い、さらに販売現場から直接得た消費者のニーズを取り入れつつ、「本檜」染めにより、きもの・帯・シヨールの開発・製作を行った。

大手販売店に「本檜」染めを用いた試作品の訪問着を見せたところ、色の深さが気に入られ、即決で百着の発注をもらうなど高い評価を得た。

外部専門家よりアドバイスを受けながら、積極的な営業活動

をした結果、得意先が増え、また社員が得意先の小売会場に向いて販売することも相まって、「本檜」染めきものの取扱店は増えている。

また「中小企業総合展2008」(東京ビッグサイト)、「京都ビジネス交流フェア2009」(京都府総合見本市会館)、「NIPPON MONO ICH

I」(東京・新宿パークタワーホール)など、支援措置を活用して展示会に「本檜」染めきものを展示し、地域資源活用事業への取り組みを認知してもらった。今後も異業種との交流を求めて出展していく方針だ。

トータルコーディネートを意識した商品展開

商品開発において同社は、①新加工による開発、②新素材による開発、③新意匠による開発、④新販路・新需要開拓による開発——に、並行して挑戦し続けている。他社製品と差別化された新京友禅のきもの・帯はもとより、コート、襦袢、シヨール、小物に至るまでトータルコーディネートが可能アイテムを拡充できれば、事業の大きな柱になるだろう。また、和装品以外に京友禅を生かした洋装の新商品・新販路開発なども、今後の伸びが期待される。

●お問い合わせ先

中小企業基盤整備機構近畿支部
近畿地域活性化支援事務局

☎06・6910・2235

